

## 事例番号 068 ものづくりへの総合的な取り組み(石川県小松市)

### 1. 背景

小松市は加賀平野の中央部に位置する人口約 11 万人のまちである。市内を梯川が貫流して日本海に注いでいる。市内にはJR北陸線小松駅、小松空港、北陸自動車道小松 IC、国道 8 号などの交通の便があり、人口は微増傾向で推移している。

小松市は建設機械の世界的トップメーカーに代表される機械産業や絹織物等の繊維業、伝統工芸の九谷焼で有名な窯業などを有し、技術集積度が非常に高い典型的な「ものづくりのまち」として発展してきた。近年では、電気機械、電子部品産業等の先端産業も発展してきている。小松市の経済がものづくりで支えられていることは就業構造や移出入額などの統計データからもうかがえる。

その小松市においても、近年の長期不況や産業空洞化の影響で新規開業が低迷するようになり、地域経済の起爆剤となる新産業の創出が求められるようになった。そのため小松市では、地域に集積されたものづくりの企業・技術を財産として活用するための様々な事業を展開してきている。その一環として、地場産業の新分野展開を支援する「小松ブランド新製品等開発支援事業」、「ものづくり交流団体活動促進事業」、「ものづくり工房マッチングビジネス定着化事業」等を実施している。本稿ではこれらの事業の概要を紹介する。



小松市の位置 (資料:小松市ホームページ)

### 2. 目標

2005 年に認定された小松市の地域再生計画は、「企業集積・技術集積という大きな財産と、高速交通ネットワークを最大限に活かし、「産業人材育成と雇用創出」、「産業創出と企業誘致」、「地場産業の高度化と育成」の 3 つの観点で施策を展開し、「ものづくりのまち再生」を目指す」とし、次の 3 つの目標を掲げている。

- (目標 1) 高度な知識を持つ人材の育成と雇用機会の拡大  
(有効求人倍率を 1.0 以上に向上。)
- (目標 2) 新産業の創出と企業誘致  
(10 年間の企業立地に伴う投資額累計 200 億円)
- (目標 3) 地場産業の新分野への展開など高度化付加価値化を推進  
(製造品出荷額の対県比率を 17%に増加)

### 3. 取り組みの体制

小松市が中心となりつつ、石川県、製造業事業者、小松商工会議所(産業人育成研修事業)、小松市ものづくり工房マッチング推進協議会(ものづくり工房マッチングビジネス定着化事業)、地域のものづくり企業等が連携して活動している。

### 4. 具体策

#### (1) 地域再生計画

小松市の地域再生計画(計画名称:「ものづくりのまち活性化計画」、計画期間:2005~2014 年度)は、先に述べた目標を達成するための施策として以下を掲げている。

- ・ 産業人材育成を支援するとともに、キャリア教育の更なる推進をしながら、若者や中高齢者・障害者の就労支援と雇用機会の拡大を目指す。
- ・ 産業創出支援、中でも特に健康産業の創出などの事業を推進するとともに、新たな工業団地の造成や企業誘致も進め、地域経済の活性化を図る。
- ・ 新分野展開への支援、伝統地場産業への支援、ものづくり基盤確立への支援などを推進し、地場産業に新たな付加価値を見出していく。
- ・ これらの施策を、企業集積、技術集積と高速交通ネットワークという 2 つの地域資源を最大限に活用し推進していく。

具体的には、「若者の就労支援と産業人材育成」、「産業創出と企業誘致」、「地場産業の高度化と育成」、「企業集積・技術集積と高速交通ネットワークの活用」の 4 つの分野の事業を総合的かつ一体的に行うこととしている。それらの事業内容は以下のようになっている。

[若者の就労支援と産業人材育成]

i) 若者の就労支援事業(事業実施主体:石川県、小松市)

#### ① しごと情報コーナー設置事業

若者の離職対策及び中高年齢者の再就職支援事業として小松パートサテライト内に「しごと情報コーナー」を設置し、情報提供を実施。

#### ② キャリア教育推進事業

文部科学省のキャリア教育推進事業の指定を受け、児童生徒一人ひとりの就労観、職業観育成のため職場体験活動などを通じて、小中高における職業意識教育の推進を、学校・経済界・家庭・行政が一体となって取り組む。

③ ジョブカフェ事業

石川県が若年者の就職支援として取り組んでいるジョブカフェ事業において、地域の拠点として加賀サテライトを小松市に設置しており、県と協力しながら若年者の雇用拡大に努めていく。

ii) 産業人材育成事業(事業実施主体:小松市、(社福)こまつ育成会、小松商工会議所)

① 産業人育成研修事業

産業人の知識向上と雇用促進を目的として、就業に必要な「技術・知識」を習得するための通信研修等の受講料の一部支援を実施。

② 中高年齢者等職業訓練奨励金交付事業

中高年齢者及び障害者の職業能力の開発と雇用の促進を図るため、職業能力開発施設での職業訓練受講に対し、奨励金を交付。

③ 障害者就業・生活支援センター事業

障害者の雇用促進のため、就業・生活両面から支援する就業支援員及び生活支援員を配置し、雇用開拓・職場実習指導・定着指導・生活習慣づくり支援・事業所へのアドバイスなどを一体的に実施。

④ 人材育成啓発事業

専門分野の講師によるセミナー・講演会の開催

[産業創出と企業誘致]

i) 産業創出支援事業(事業実施主体:小松市)

① 民間ITインキュベート施設の設置事業者及び入居者支援事業

市内企業等の施設を「民間ITインキュベート施設」として活用できるように、施設所有者に改造経費等の支援措置を実施し、SOHO 事業者の起業しやすい環境づくりを進める。

② 起業家支援資金融資制度

市内で起業する場合に必要な資金配給を円滑にし、起業家の育成に努める。

ii) 健康サービス産業創出支援事業(事業実施主体:小松ウエルネス・コンソーシアム)

健常者、生活習慣病予備軍、疾病患者、要支援認定者などに対し、ICM(インフォームド・チョイス・メニュー:個人にあったEBH に基づくメニュー)を提供し、保険者、医療機関、健康関連事業者をつなぐ事業主体(エージェント企業を含むコンソーシアム)をつくり、健康増進サービス事業を創出する。さらに、「健康」をキーワードに、温泉・空港といった地域資源を活用した集客交流型サービス産業の創出を目指す。

iii) 新工業団地造成事業(事業実施主体:小松市土地開発公社)

造成済の産業団地の未処分地在が4区画、計4ヘクタール(H17.5.1 現在)となったため、新たな企業立地を目指し、新工業団地の造成を行う。

iv) 企業誘致事業(事業実施主体:小松市)

産業団地の造成を行うと共に、最大2億円の工場立地助成を実施してきたが、平成16年度からは、新しく情報通信関連事業所等オフィス系事業所の助成制度も創設し、さらなる企業誘致に努めていく。

〔地場産業の高度化と育成〕

i) 新分野展開支援事業(事業実施主体:小松市)

① 小松ブランド新製品等開発支援事業

新製品・新技術開発を支援するため、優れた新製品に対し「小松ブランド」認定を行い、中小製造業者等が行う新製品販路開拓事業等に要する経費に助成することにより新分野展開を支援。

② ものづくり交流団体活動促進事業

中小製造業者の異業種間で、新製品・新技術の開発を促進してもらうための研究への支援。

③ ものづくり工房マッチングビジネス定着化事業

中小製造業者の技術と生活用品や車イスなどの補装具品の改良などを求める障害者、高齢者の要望をWeb上でマッチングさせることにより、中小製造業者の製品提案力、技術力の向上を図り、下請け体質の脱却を目指すとともに、高齢者・障害者にやさしいまちを目指す。

ii) 伝統地場産業支援事業(事業実施主体:小松市)

① 織物産地活性化事業

織物産地としての伝統技術と先端技術を駆使した新製品を開発し、開発された織物によるファッションコンテストを開催することにより活性化を図る。

② 九谷焼支援事業

地場産業である九谷焼の振興を図るため、新製品開発と販路拡大の支援をおこなう。

iii) ものづくり基盤確立支援事業(事業実施主体:小松市)

① ISO 認証取得支援事業

市内中小企業者の ISO(国際標準化規格)の認証取得を支援し、企業の基盤を確立する。

② 中小企業制度金融事業

市内中小企業に資金を融資し、設備の近代化や経営の安定化を促す。

③ 中小企業団体育成補助事業

市内における中小企業団体の組織活動事業に対し、組織活性化の促進を目的として支援する。

〔企業集積・技術集積と高速交通ネットワークの活用〕

i) 空港 IC の設置検討(事業実施主体:石川県・小松市)

スマート IC の社会実験の実施といった支援措置の導入も検討しながら、北陸自動車道への小松 IC 設置に向けた調査研究を進め、物流の拠点化を目指す。

ii) 国際産業展示館の建設(事業実施主体:石川県・小松市)

空港周辺地域での国際産業展示館の建設に向けた検討を県と連携して進める。

iii) JR小松駅と空港の連携強化(事業実施主体:小松市)

北陸新幹線開業も視野に入れながら、JR小松駅と空港間の移手段や、発券・搭乗手

続き等のサービス施設の相互乗り入れなどの検討を進める。

地域再生計画の対策事業はこのように多岐にわたっているが、以下では地場産業の「新分野展開支援事業」に焦点をあて、「小松ブランド新製品等開発支援事業」、「ものづくり交流団体支援事業」、及び「ものづくり工房マッチングビジネス定着化事業」の概要を紹介する。

## (2) 新分野展開支援事業

### ① 小松ブランド新製品等開発支援事業

この事業は、今後成長が見込める医療・福祉・環境・情報通信等の各分野における新製品・新技術の開発を支援するため、それらを小松ブランドとして認定し、新製品販路開拓等に要する経費に対して補助金を交付するものである。補助率は対象経費の2分の1以内である(限度100万円)。対象となる経費は、広告宣伝経費、見本市経費、研究開発に要した経費(対象経費の3分の1以内)である。

支援対象企業数は、2002年度3社、2003年度4社、2004年度3社、2005年度3社、2006年度3社であった。対象製品と開発会社は以下のようになっており、伝統工芸技術関連とリサイクル技術関連製品が多くなっている。

#### [2002年度]

竹とガラスでつくるスタンドグラスサイン (株式会社タイキユー)  
万能シートベルトと音声案内(車椅子用) (南熔工業株式会社)  
小松綿糸を利用したインテリア商品の開発 (山木絹織)

#### [2003年度]

小松イグサを使った「小松畳表」の寝床(ベッド) (生活アート工房)  
フラワーベット(花瓶用紙製容器) (株式会社北村紙器)  
制御盤自動配線用各種コネクタ端子対応電線加工機「HI-2000システム」  
(ライオンパワー株式会社)  
コンパクト軽量買い物袋 (高木織物株式会社)

#### [2004年度]

九谷焼風リレーフサイン (株式会社タイキユー)  
竹炭入り燃糸品 (ヒロタ工織有限会社)  
業務用減溶型生ゴミ処理機(RECO) (小松電子株式会社)

#### [2005年度]

炭のアート品(炭苑、花器) (山正建設株式会社)  
光の器 (マリブデザインファクトリー)  
真空乾燥装置 (株式会社北日本テクノス)

[2006 年度]

ひのきのフラワーポット (有限会社生活アート工房)  
和を進化する「j-modern」 (マリブデザインファクトリー)  
アビアランス (小松製瓦株式会社)

## ② ものづくり交流団体支援事業

複数の製造業者が行う研究会等の開催に要する経費に対して補助金を交付するものである。補助率は対象経費の 2 分の 1 以内である(限度 30 万円)。支援件数は、2002 年度 2 件、2003 年度 1 件、2004 年 0 件、2005 年 0 件であった。

[2002 年度]

ポリエステル糸屑の再利用 (株式会社黒本繊維)  
ナイロン糸屑と紙管の再利用 (ノシロ合繊株式会社)

[2003 年度]

木(紐子細工)と陶(九谷焼)の組合せによる新製品の開発  
(木と陶の調和を考える会代表広崎建具)

「小松ブランド新製品」と「ものづくり交流団体」の製品を一つずつ紹介すると、前者の中の「光の器」(2005 年度)は、「陶器の質感、和紙の温かみを活かした、新しい照明器具ができないか? 漠然とした思いつきが高光度 LED との出会いにより実現。従来の照明器具より繊細な光、さらにパソコンやセンサーとの連動でより豊かな表現力を持つ照明器具」と説明されている。後者の中の「木(紐子細工)と陶(九谷焼)の組合せによる新製品」(2003 年度)は、「小松市の特産品である九谷焼の素材と技術、木材の素材と建具業の技術を駆使して、住宅関連及び調度品などの関連分野で、人にやさしい製品、体によい自然素材による製品開発」と説明されている。



「光の器」(左)と「紐子細工と九谷焼の組み合わせによる新製品」(右)

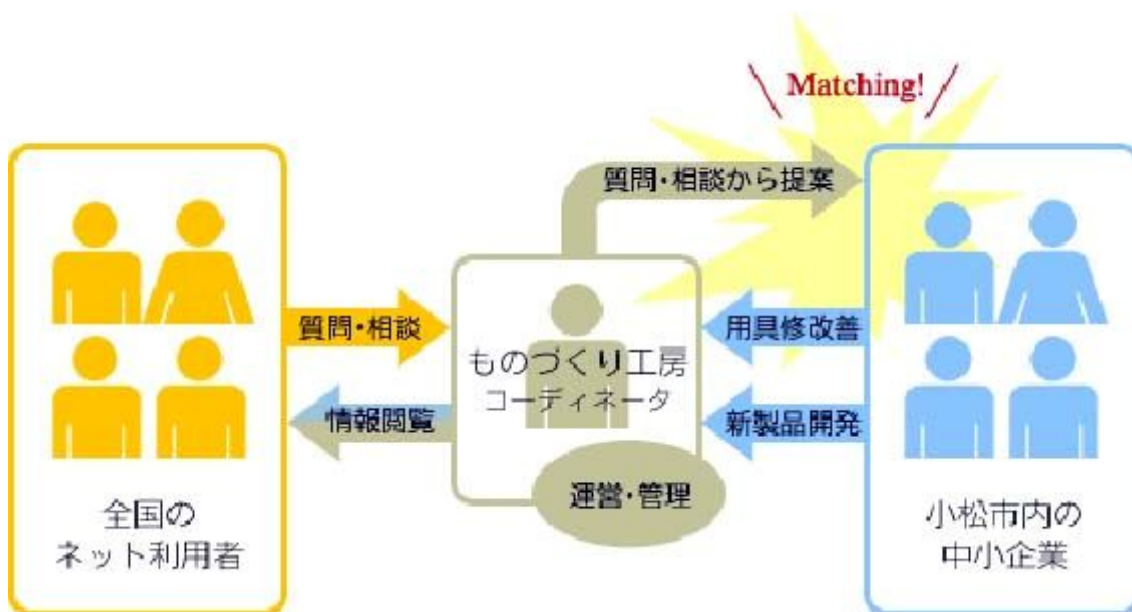
(資料:小松市ホームページ)

### ③ものづくり工房マッチングビジネス定着化事業

小松市では補装具として車椅子 348 台、介護ベッド(特殊寝台)470 台が利用されていたが(2002年12月末時点)、これらに対して利用者の体型や利用環境に合った改良・調整の要望が数多く出されていた。しかし、それに対応する態勢ができていなかった。一方、技術を持った企業が多数存在するにもかかわらず、受注減少に悩んでいた。そこで、この2つを結びつけようという発想が生まれ、2003 年度に総務省の支援を受けて「ものづくり工房マッチングビジネス定着化事業」が創設された。

この事業は、医療・福祉・介護・生活支援用品に対する消費者・利用者の要望と小松市内の中小製造業の技術・製品とをWeb上でマッチングさせるものである。小松市がシステムを整備し、「小松市ものづくり工房マッチング推進協議会」が運営している。中小製造業者の製品提案力、技術力の向上を図り、下請け体質の脱却を目指している。

マッチングの仕組みは、「小松市ものづくり工房マッチング推進協議会」がネット上で消費者の質問・相談を受け付け、それを選択咀嚼して小松市内の中小事業者に提案し、それに中小事業者が応えて製品化するというものである。これまでに車椅子の木製テーブル、車椅子の音声案内、おむつ用品、床ずれ予防用品、自助食器、カーテン閉開用具など多彩な製品が生まれている。



まちづくり工房マッチングの仕組み (資料:ものづくり工房ホームページ)



車椅子の木製テーブル (写真:ものづくり工房ホームページ)

## 5. 特徴的手法

地域に蓄積されたものづくり技術の新たな発展を多面的な施策で促進している。特に地場産業の高度化と育成については、新製品開発に対する資金的支援や消費者ニーズ情報の翻訳伝達により新しい商品領域の開拓を促している点が特徴的である。

## 6. 課題

マッチング事業を収益事業にまで育成することは容易ではなく、引き続きシステムの高度化を図っていく必要がある。2005年11月には小松市、金沢大学共同研究センター、日本政策投資銀行が「産学官連携協定」を締結しており、新しいものづくりに向けた人、モノ、カネ、技術、情報の総合的組織化の進展が期待される。

(参考・引用文献)

小松市ホームページ

地域再生本部ホームページ:地域再生計画

小松市『ものづくり工房マッチングサイト構築事業概要書』同